

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 15 日現在

機関番号：27101

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24330052

研究課題名(和文)日本の第一次世界大戦経験の全体像の解明 未公開新史料を活用した学際的分析

研究課題名(英文) Interdisciplinary analysis of Japan's experience of the First World War: using new primary resources

研究代表者

小林 道彦 (Kobayashi, Michihiko)

北九州市立大学・基盤教育センター・教授

研究者番号：80211910

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、独自に発掘した未公開の新史料群を活用しつつ、日本の第一次世界大戦経験を包括的に解明することであった。その成果は、主に以下の三点である。資料集として、小林道彦他編『内田康哉関係資料集成』を公刊した。研究書として、小林道彦『大正政変』、奈良岡聡智『対華二十一カ条要求とは何だったのか』、クリストファー・スピルマン『近代日本の革新論とアジア主義』を出版した。日本国内では、日本政治学会、日本国際政治学会、海外では、EAJS (European Association of Japanese Studies)、ルール大学ポーフムにおける国際シンポジウムなどで、研究成果を発表した。

研究成果の概要(英文)：The object of this study was to analyze of Japan's experience of the First World War making use of new primary resources. The main results of this study are summarized as follows. 1)KOBAYASHI Michihiko et al. ed., "The Papers of UCHIDA Yasuya" was published, 2)KOBAYASHI Michihiko "The Taisho Political Crisis", Christopher Szpilman "Progressivism and Pan-Asianism of Modern Japan" and NARAOKA Sochi "What was Japan's Twenty-One Demands?" were published. 3)Members of this project had presentations at JPSA(Japanese Political Science Association), JAIR(The Japan Association of International Relations), EAJS (European Association of Japanese Studies) and other international conferences.

研究分野：日本政治外交史

キーワード：外交史 国際関係史 第一次世界大戦 外務省 大正政変 アジア主義 対華二十一カ条要求

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 第一次世界大戦は、欧米の歴史研究では「現代史」の起点を画する事件と位置づけられ、大戦が国際政治や各国の政治・経済・社会にもたらした巨大な変化について、早くから研究が進められてきた。現代世界の出発点としての第一次世界大戦の意義は、21世紀の現在になっても変わることはなく、大戦開戦100年を前に、新たな視点からあらためて問い直す動きが活発化してきた。

(2) 一方、日本の第一次世界大戦経験、すなわち第一次世界大戦への日本の関わりと、大戦が日本に及ぼした衝撃・影響に関する研究は、欧米における大戦研究の蓄積に比して、これまで低調であった。第一次世界大戦期の日本の対外政策に関する従来の研究は、個別事件史か二国間関係史の段階にとどまり、それら相互の連関を明らかにする、総合的な分析枠組みによる研究は行われてこなかった。また、第一次世界大戦中から大戦後にかけての日本国内の政治・経済・社会における様々な変化と、同時期の外交・軍事の展開との結びつき(内政と外交の連関)に関しても、事態は同様であった。

### 2. 研究の目的

(1) 本研究は、以上の認識のもとで、欧米の研究成果を踏まえながら、第一次世界大戦を「世界の中の日本」という視点から総合的に分析することを目的として構想されたものである。

(2) 具体的には、第一次世界大戦への日本の関わりを、大戦のグローバルな展開の中に位置づけて、総合的に捉え直すとともに、第一次世界大戦が日本に及ぼした衝撃・影響を、政府指導層の認識レベルで精緻に跡づけ、解明し、以上を総合して、欧米の大戦研究の成果を踏まえた「世界の中の日本」という視点から、日本の第一次世界大戦経験を包括的に捉える新たな全体像を提示することを目指した。

### 3. 研究の方法

(1) 研究代表者(小林)を中心とする研究グループは、2009-11年度に科学研究費補助金の助成を受けて、外交官・内田康哉の個人史料「内田康哉関係文書」(氷川町竜北歴史資料館所蔵)の調査・整理・分析を進めてきた(基盤研究B「戦間期日本の協調外交の形成・崩壊過程の解明-新史料「内田康哉文書」に基づく分析」)。本史料は、これまで明らかにされてこなかった、両大戦間期の日本の国際協調外交の形成ならびに崩壊の政治過程を解明する上で貴重な史料であると同時に、第一次世界大戦期の日本外交を研究する上でも、極めて重要な史料である。そこで本研究では、その内容の重要性に鑑み、「内田康哉関係文書」の主要部分の公刊に取り組むこ

ととした。

(2) さらに、「内田康哉関係文書」以外に本研究グループが独自に入手・収集した各種新史料をも用いて、日本の第一次世界大戦研究の水準を、欧米の大戦研究と相互参照が可能なレベルにまで引き上げることを目指した。また、政党政治・総力戦体制・国際協調外交・アジア主義といった諸理念の相互の複雑な関係性を解き明かすことを通じて、従来は大戦期・1920年代・1930年代と時期区分され相互に断絶したものとして捉えられてきた、大戦期から1930年代にかけての日本の対外政策・国内政治の展開を、統一的に把握することを可能にする新たな視座を提示することを目指した。

### 4. 研究成果

(1) 「内田康哉関係文書」については、その主要部分を小林道彦・高橋勝浩・奈良岡聡智・西田敏宏・森靖夫編『内田康哉関係資料集成』全3巻(柏書房)として出版した。また、竜北歴史資料館所蔵の史料原本は全てマイクロフィルム化し、2013年3月30日から国立国会図書館憲政資料室において公開を開始した。本史料(集)は、今後第一次世界大戦期や戦間期の日本外交を研究するにあたって必須の史料集として活用されることになろう。

(2) 本研究の成果は、以下に示す通り、学術論文や図書の形で発表した。このうち研究代表者の小林の成果は、第一次世界大戦前から大戦後にかけての政軍関係の展開に関わるものである。小林の議論は、日露戦後の児玉源太郎の統帥権改革構想を明らかにし、それが大戦後に首相として国際協調外交を牽引した原敬のそれに継承・発展させられたと見ることができることを明らかにした点が特徴的である。小林は、論文集『日本政治史のなかの陸海軍:軍政優位体制の形成と崩壊1868-1945』を編集し、児玉の統帥権改革構想を、戦前期の「軍政優位体制」と言うべき体制の中に位置づけるとともに、旧著『日本の大陸政策』(南窓社、1996年)に書きおろし部分を加えて、新著『大正政変』として公刊した。

(3) 研究分担者クリストファー・W・A・スピルマンは、第一次世界大戦期の日本で台頭したアジア主義について、満川亀太郎、鹿子木員信ら代表的な論者に焦点を当てて分析を行い、史料集『満川亀太郎書簡集』や論文を公刊した。また、北一輝、大川周明、西田税らの分析を通して、アジア主義が第二次世界大戦期の日本にどのような影響を及ぼしたのかについても考察を深め、単著『近代日本の革新論とアジア主義-北一輝、大川周明、西田税らの思想と行動』を公刊した。

(4) 研究分担者の奈良岡聰智は、これまでの日本の第一次世界大戦研究で看過されてきた抑留者・捕虜の問題について分析を進め、単著『「八月の砲声」を聞いた日本人 - 第一次世界大戦と植村尚清「ドイツ幽閉記」』を公刊するなどした。また、第一次世界大戦への日本の参戦、日本が1915年に中国に提出した対華二十一カ条要求についても考察を深め、単著『対華二十一カ条要求とは何だったのか』を公刊した。

(5) この他、各種学会でも研究報告を行い、様々な専門の研究者との討論や意見交換を、論文や著書の分析に反映させることに努めた。その際、日本と海外の第一次世界大戦研究の接点が従来稀薄だったことに鑑み、両者の相互理解を深めるべく、海外の学会でも積極的に成果報告を行うことに努めた。海外での報告は、イギリス、ドイツ、スロヴェニア、トルコ、台湾で実施した。今後は、ここで構築されたネットワークを活かしつつ、グローバルな文脈を意識した第一次世界大戦研究をさらに進めていきたい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計12件)

奈良岡聰智、二十一カ条要求の策定過程第五号をめぐる加藤高明外相の外交指導、法学論叢、査読無、176巻5・6号、2015年、266-327頁

奈良岡聰智、第一次世界大戦初期における日本の外交世論 参戦と二十一カ条要求をめぐる「(一)(二)(三・完)」法学論叢、査読無、174巻5,6号、175巻2号、2014年、1-32頁、1-28頁、

奈良岡聰智、二十一カ条要求提出の背景 日露戦後の日中関係と加藤高明、法学論叢、査読無、176巻2・3号、2014年、348-396頁

奈良岡聰智(岡田暁生・藤原辰史との対談)、第一次世界大戦と私たちの今、公研、査読無、52巻8号、2014年、38-55頁

奈良岡聰智(梶原克彦との共著)(書評)大津留厚『捕虜が働くとき：第一次世界大戦・総力戦の狭間で』(人文書院、2013年)、西洋史学、査読無、254号、2014年、180-183頁

小林道彦、日露戦争から大正政変へ 1901~1913 -、近代日本研究、査読無、29号、2013年、3-32頁

クリストファー・W・A・スピルマン(スヴェン・サーラと共著)、東アジアにおける地

域主義とアジア主義に関する歴史研究の現在、日本思想史学、査読無、45号、2013年、199-202頁

Christopher W. A. Szpilman, Kanokogi Kazunobu: Pioneer of Platonic Fascism and Imperial Pan-Asianism, Monuments Nipponica, 査読無、68-2, pp.233-280, 2013

森靖夫、石原莞爾と関東軍人脈、歴史読本、査読無、58巻8号、2013年、80-85頁

小林道彦、大正10年2月12日付田中義一宛山県有朋書翰(部分)、日本歴史、査読無、781号、2012年、口絵2頁分

Christopher W. A. Szpilman, (book review) Janis Mimura, Planning for Empire: Reform Bureaucrats and the Japanese Wartime State" Monuments Nipponica, 査読無、67-2, pp.348-352, 2012

高橋勝浩、(書評)服部聡著『松岡外交：日米開戦をめぐる国内要因と国際関係』(千倉書房、2012年)、日本歴史、査読無、786号、129-131頁

[学会発表](計13件)

Yasuo Mori, Preparation of Total War in Japan, International History Seminar, 10 March 2015, Institute of Historical Research, University of London

奈良岡聰智、第一次世界大戦と日中関係 - 二十一カ条要求を中心として、日本国際政治学会2014年度研究大会・部会3「第一次世界大戦とアジア - 日本・中国・インドと国際秩序の変容」、2014年11月14日、福岡国際会議場

Sochi Naraoka, The Japanese who heard the "Guns of August": the Outbreak of the First World War and Japanese Internees in Germany, international conference "The East Asian Dimension of the First World War: The German-Japanese War and China, 1914-1919", 6 September 2014, Ruhr University Bochum

奈良岡聰智、第一次世界大戦中のドイツにおける日本人抑留者の運命、ベルリン独日協会主催講演会、2014年9月2日、ベルリン独日協会

Christopher W. A. Szpilman, The Impact of World War I on Japan in the light of New

Historical Research(chair and discussant), the 14th Annual EAJJS(European Association of Japanese Studies) Conference, 29 Aug 2014, University of Ljubljana

Sochi Naraoka, Rethinking Japan's Entry into the First World War: the Outbreak of the War and Kato Takaaki's Leadership, the 14th Annual EAJJS(European Association of Japanese Studies) Conference, 29 Aug 2014, University of Ljubljana

奈良岡聰智、対華二十一カ条要求とイギリス、東アジア近代史学会第 19 回大会シンポジウム「第一次世界大戦と東アジア世界の変容 第一次世界大戦勃発 100 年にあたって」、2014 年 6 月 22 日、麗澤大学

奈良岡聰智、日本にとって第一次世界大戦とは何だったのか、日本国史学会「第一次世界大戦 100 周年シンポジウム」、2014 年 4 月 20 日、スター貸会議室御茶の水駅前カンファレンスルーム 1

奈良岡聰智、参戦外交再考 第一次世界大戦の勃発と加藤高明外相のリーダーシップ、「日本近代的領袖群像」国際學術研討会、2014 年 3 月 15 日、中央研究院亞太區域研究專題中心(台湾台北市)

森靖夫、国家総力戦としての日中戦争、「國共關係與中日戦争」国際學術研討會、2013 年 11 月 1 日、中央研究院近代史研究所(台湾台北市)

森靖夫、第一次大戦と日本陸軍、日本政治学会 2012 年度研究大会、2012 年 10 月 6 日、九州大学

クリストファー・W・A・スピルマン、第一次世界大戦とアジア主義、日本政治学会 2012 年度研究大会、2012 年 10 月 6 日、九州大学

Christopher W. A. Szpilman, Discreet Charm of the Silk Road: West and Central Asia in the Eyes of the Japanese Radical Right, the Japanese Studies Conference "Japan on the Silk Road: Encounters and Perspectives on Politics and Culture in Eurasia", 16 June 2012, Bogazici University, トルコ・イスタンブール

〔図書〕(計 13 件)

小林道彦、大正政変 国家経営構想の分裂、千倉書房、2015 年、420 頁

クリストファー・W・A・スピルマン、近代日本の革新論とアジア主義 - 北一輝、大川周明、西田税らの思想と行動、芦書房、2015 年、

351 頁

奈良岡聰智、対華二十一カ条要求とは何だったのか 第一次世界大戦と日中対立の原点、名古屋大学出版会、2015 年、488 頁

小林道彦、児玉源太郎と原敬 台湾統治と統帥権改革・行政整理をめぐる対立と協調、奈良岡聰智、第一次世界大戦と原敬の外交指導 一九一四～二一年、原敬をめぐる「政治空間」 芝本邸・盛岡別邸・腰越別荘、原敬と政党政治の確立(伊藤之雄編著)、千倉書房、2014 年、700 頁(分担執筆 31-94 頁、239-321 頁、619-668 頁)

クリストファー・W・A・スピルマン、鹿子木員信とアジア主義 その思想的特徴を中心に、アジア主義思想と現代(長谷川雄一編)、慶應義塾出版会、2014 年、344 頁(分担執筆 73-114 頁)

奈良岡聰智、参戦外交再考 第一次世界大戦の勃発と加藤高明外相のリーダーシップ、近代日本のリーダーシップ 岐路に立つ指導者たち(戸部良一編)、千倉書房、2014 年、464 頁(分担執筆 43-71, 382-389 頁)

奈良岡聰智、第一次世界大戦初期の日本外交 参戦から二十一カ条要求まで、現代の起点 第一次世界大戦(山室信一・岡田暁生・小関隆・藤原辰史編) 第 1 巻、岩波書店、2014 年、272 頁(127-147 頁)

Sochi Naraoka, A New Look at Japan's Twenty-One Demands: Reconsidering Katō Takaaki's Motives in 1915, The Decade of the Great War: Japan and the Wider World in the 1910s(Tosh Minohara, Tze-ki Hon and Evan Dawley eds), Brill, 2014, 540pages(pp.189-210)

小林道彦、児玉源太郎と統帥権改革、森靖夫、国家総力戦への道程 日中全面戦争と陸軍省軍政官僚たちの葛藤、日本政治史のなかの陸海軍: 軍政優位体制の形成と崩壊 1868-1945 (小林道彦・黒沢文貴編著)、ミネルヴァ書房、2013 年、274 頁(分担執筆 85-125 頁、177-208 頁)

奈良岡聰智、「八月の砲声」を聞いた日本人 - 第一次世界大戦と植村尚清「ドイツ幽閉記」、千倉書房、2013 年、375 頁

小林道彦・高橋勝浩・奈良岡聰智・西田敏宏・森靖夫(編)、内田康哉関係資料集成、全 3 巻、柏書房、2012 年、1858 頁

長谷川雄一・クリストファー・W・A・スピルマン、今津敏晃編、満川亀太郎書簡集 北一輝、大川周明、西田税等の書簡、論創社、

2012年、378頁(分担執筆306-338頁)

森靖夫、満州事変と日中戦争、「戦争」で読む日米関係100年(蓑原俊洋編)、朝日新聞出版、2012年、328頁(分担執筆68-89頁)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

内田康哉関係文書(MF:氷川町竜北歴史資料館蔵)目録(国立国会図書館憲政資料室)  
<https://rnavi.ndl.go.jp/kensei/entry/uchidayasuya.php>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

小林 道彦(KOBAYASHI Michihiko)  
北九州市立大学・基盤教育センター・教授  
研究者番号: 80211910

### (2) 研究分担者

クリストファー・W・A・スピルマン  
(C・W・A・Szpilman)  
九州産業大学・国際文化学部・教授  
研究者番号: 00412461

西田 敏宏(NISHIDA Toshihiro)  
椋山女学園大学・現代マネジメント学部  
・准教授  
研究者番号: 90362566

奈良岡 聰智(NARAOKA Sochi)  
京都大学・法学研究科・教授  
研究者番号: 90378505

森 靖夫(MORI Yasuo)  
同志社大学・法学部・准教授  
研究者番号: 50512258

(3) 連携研究者  
なし